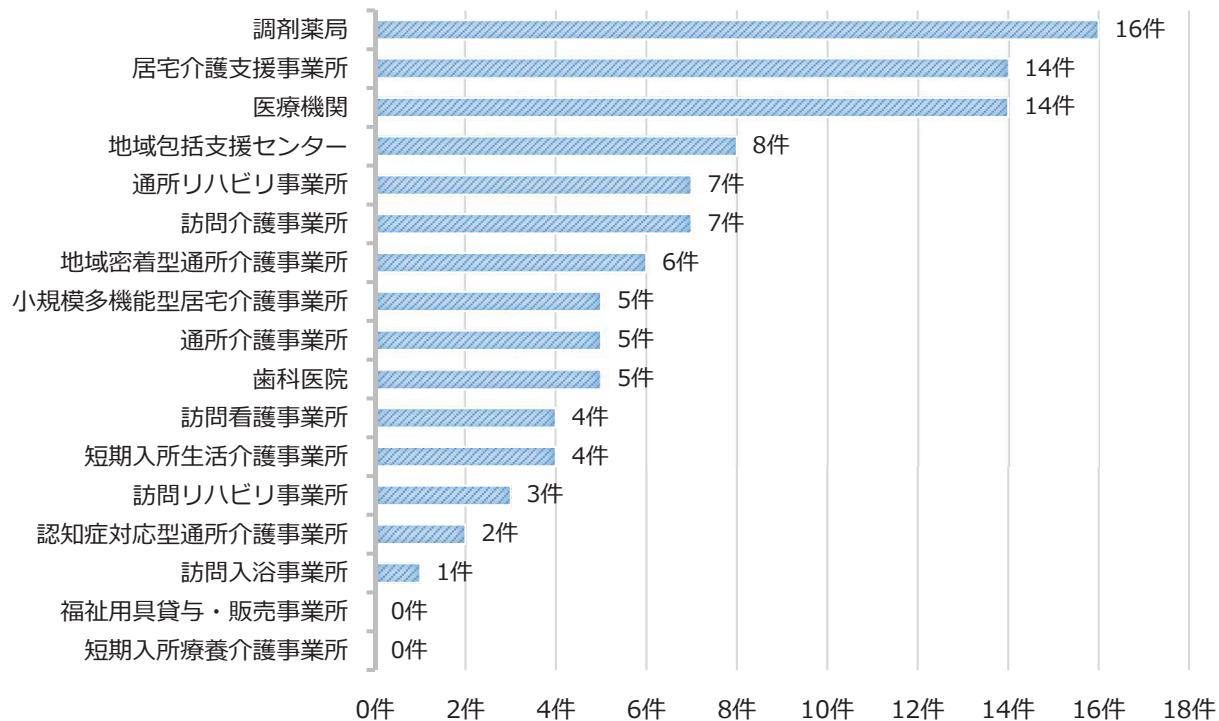


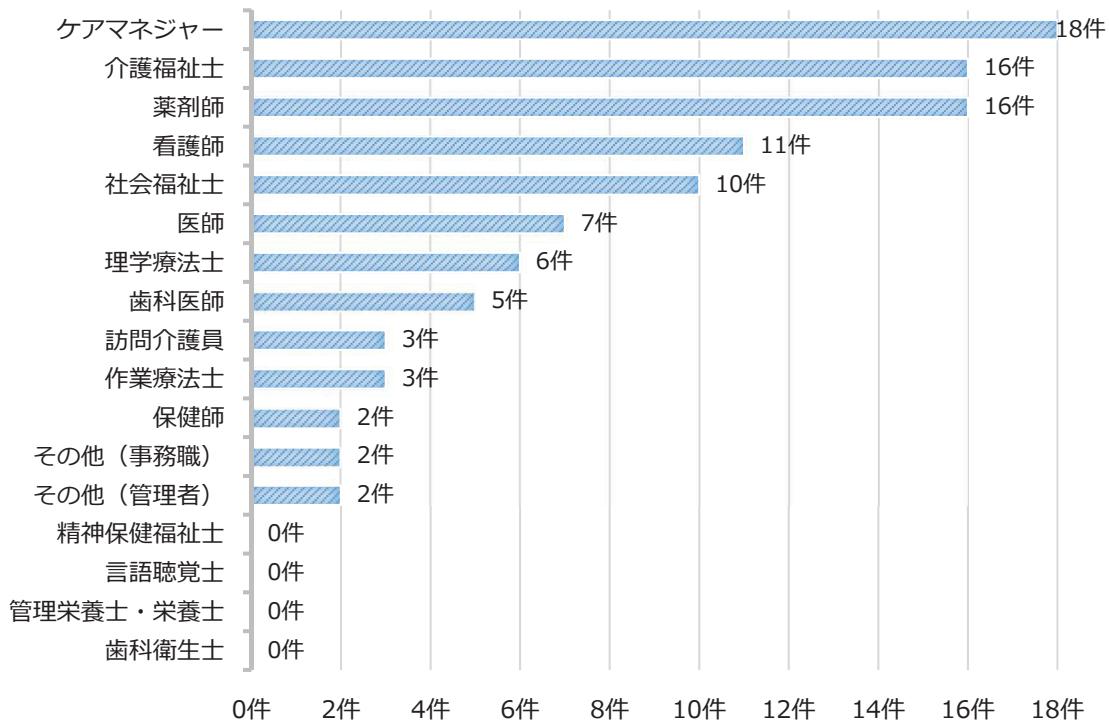
II 調査結果

回答者について

■ 所属機関



■ 職種



あなたの現状（ここ3年程度）について

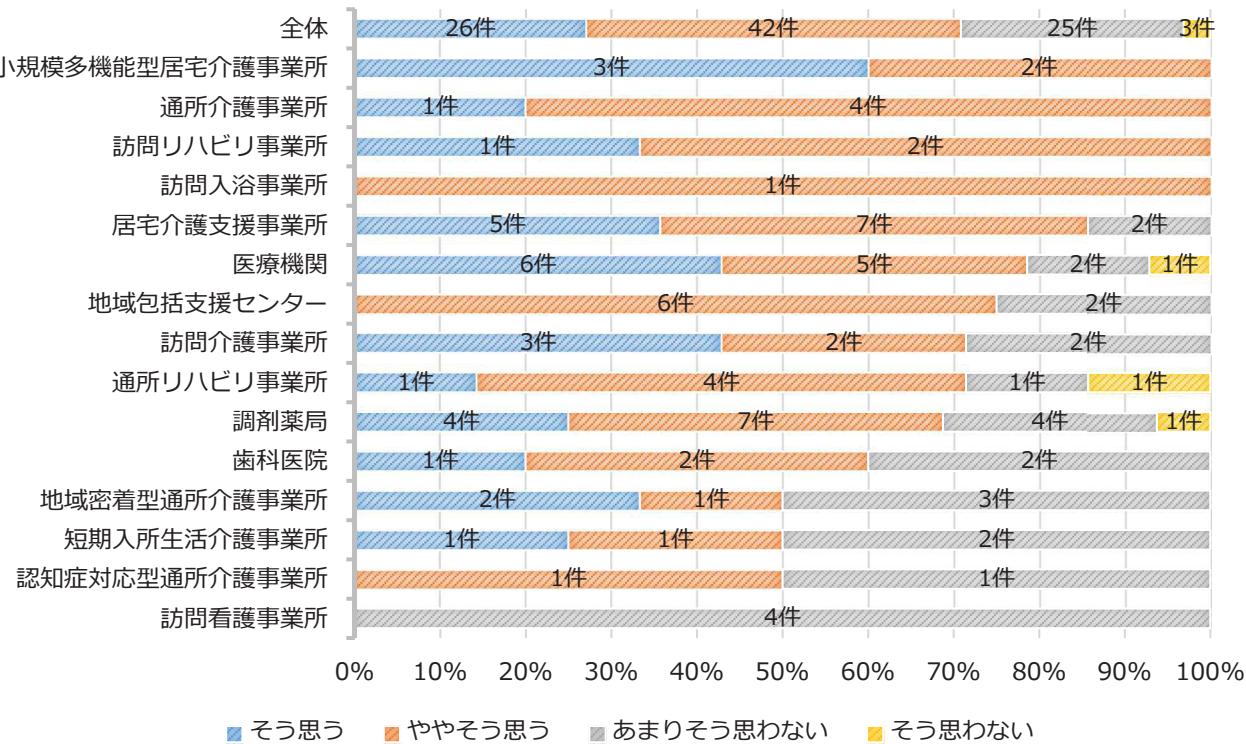
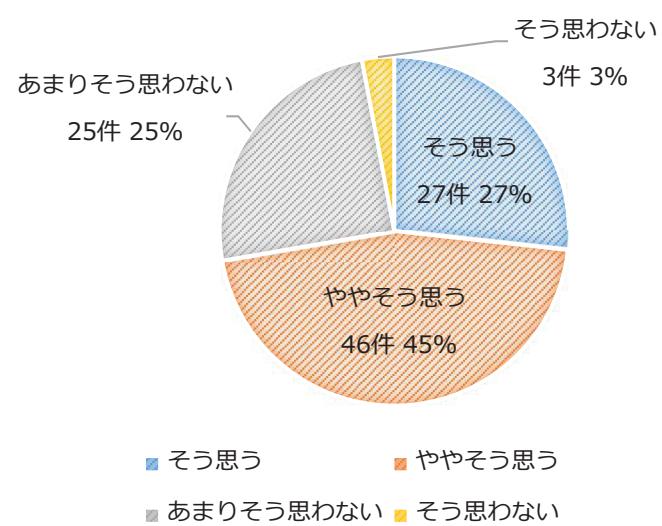
■多職種や他機関連携の図りやすさ

『多職種や他機関連携は、図りやすくなりましたか。』の問い合わせに対して、「ややそう思う」が45%で最も多く、次いで「そう思う」が27%、「あまりそう思わない」が25%、「そう思わない」が3%となっている。

約7割の事業所が、ここ3年程度について連携が図りやすくなつたと回答しており、多職種や他機関連携が進んでいることが分かる。事業所別でいくと、特に「小規模多機能型居宅介護事業所」「通所介護事業所」「訪問リハビリ事業所」において、連携が進んでいる。

多職種や他機関連携は図りやすくなつたかについて、「そう思う」「ややそう思う」と回答した理由としては、「地域ケア会議等の参加により顔の見える関係が築け、情報交換がしやすくなつた。」が最も多く、「くまもとメディカルネットワーク等、様々なツールの活用にて情報交換がしやすくなり、紙媒体や電話などの手間が省け、連携がスムーズになった」「研修を通して、多職種連携に対する意識向上や必要性の共有ができた」などと回答している。

「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した理由としては、「連携を図る職種や事業所が限られており、情報共有不足」が最も多く、「ICT活用が進化した一方で顔を合わせる機会が減った」「連携方法が分からぬ」と回答している。



4つの場面について

■「日常の療養支援」の連携で感じている困難さと解決策

『医療と介護の連携した対応が求められる4つの場面の「日常の療養支援」において、連携の困難を感じていることは、どのようなことですか。また、その内容を解決するためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。』の問い合わせに対して、「人手不足で十分に対応できないため、人材確保の取り組みが必要」「情報共有不足のため、問い合わせや相談しやすい環境構築」「ICT利活用の推進」が最も多かった。

■「入退院支援」の連携で感じている困難さと解決策

『医療と介護の連携した対応が求められる4つの場面の「入退院支援」において、連携の困難を感じていることは、どのようなことですか。また、その内容を解決するためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。』の問い合わせに対して、「退院前カンファレンスへの参加が増え状態が把握しやすくなった」という声がある一方「退院後の身体状況が分からぬいため対応が難しい」「退院後すぐに状態不良になりやすい」「入退院の情報が入らない」という回答が多く、医療と介護の情報共有が十分でないことが分かる。

また、医療機関からは、「特に高齢者世帯で遠方に家族がいる場合や独居高齢者の場合の対応が困難なため、知り得る範囲で情報提供が欲しい」と回答している。調剤薬局においては、「処方箋が発行されてから入退院の情報を知るため、ケアマネや地域連携室から連絡が欲しい」「情報共有ツールとして携帯電話で確認できるシステムが欲しい」との声があった。

介護事業所からは、「退院後の身体状態が分からぬいため」「急な退院の調整に困る」「介護力のない家族を持つ利用者の退院については家族の理解や今後の生活等について綿密にすり合わせお願いしたい」「医療用語を使わない説明やカンファレンスの充実、支援検討会などの開催」「在宅に帰すための環境や患者のADLが整っておらず、多職種で退院の目途を決定するのが望ましい」との声があり、退院後の生活を見据えた早期の介入支援や退院カンファレンスの徹底が必要であることが分かる。

■「急変時の対応」の連携で感じている困難さと解決策

『医療と介護の連携した対応が求められる4つの場面の「急変時の対応」において、連携の困難を感じていることは、どのようなことですか。また、その内容を解決するためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。』の問い合わせに対して、医療機関からは「家族不在の場合や独居高齢者などの連絡先や支援者探しのが困難」、介護事業所からは「夜間帯や、かかりつけ医が休診の場合、休日は関係機関に問い合わせが出来ず困るため、医療機関から急変時の指示書があればよい」「対応方法が分からぬいためマニュアルの徹底や役割分担を決めておく」「救急車要請」などと回答している。

■「看取り」の連携で感じている困難さと解決策

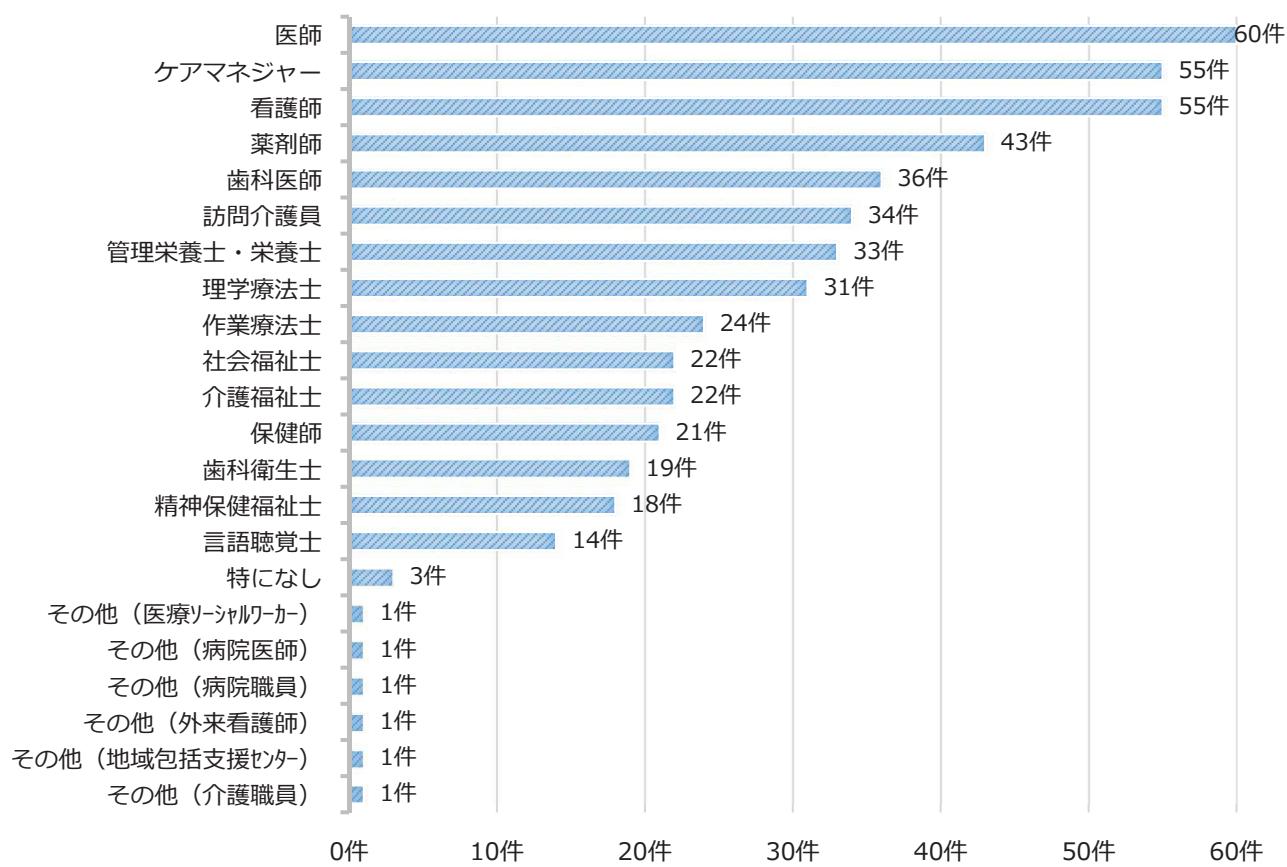
『医療と介護の連携した対応が求められる4つの場面の「看取り」において、連携の困難を感じていることは、どのようなことですか。また、その内容を解決するためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。』の問い合わせに対して、「本人や家族の意向確認が遅いため、ACPの普及が必要」「適切な場面でより多くの選択

が提供できるような関係づくり」「主治医と連絡が取れず困ったため、情報共有や多職種連携で迅速に動く役割分担」「医療主導による介護事業所への指導やアドバイスが欲しい」などご回答している。

■今後、より連携を深めていきたい職種（複数選択可）

『今後、より連携を深めていきたい職種はありますか。』の問い合わせに対して、「医師」が60件と最も多く、次いで「ケアマネジャー」「看護師」53件、「薬剤師」43件となっている。

理由としては、「どの職種においても連携の必要性を感じる」という声が最も多く、介護事業所からは「医療面の知識が乏しいため、利用者の健康状態や注意点などをより詳しく尋ねられる関係性を築きたい」「医師や外来看護師は診療時間があり連絡をとるのが難しく相談しづらいので連携を深めたい」「それぞれの専門的視点が必要」などの声がある。どの職種もより多くの情報共有や多職種連携の必要性を感じていることが分かる。

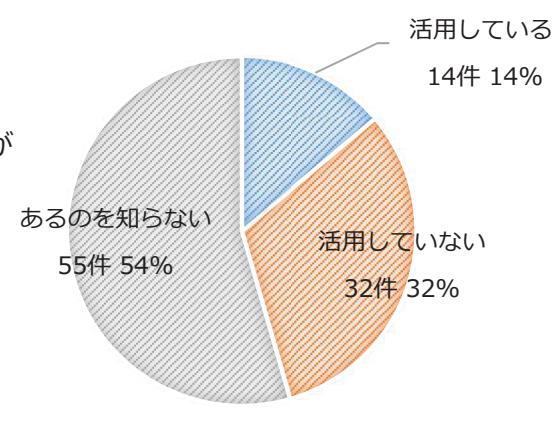


人吉球磨在宅医療介護連携推進事業のホームページ「だんだんあネット」について

■「だんだんあネット」の活用状況

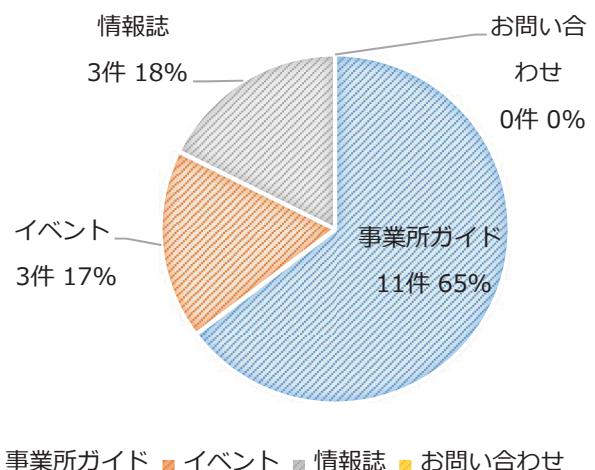
『「だんだんあネット」は、活用していますか。』の問い合わせに対して、「あるのを知らない」が54%と最も多く、次いで「活用していない」が32%となっており、約9割が活用していないことが分かった。

また、半数以上がホームページの存在を認知していないため、広報強化が必要と考える。活用していない理由としては、「知らなかつた」「必要性がなかつた」が最も多く、「ホームページが更新されていない」「必要な情報がない」「活用方法がわからない」などご回答している。



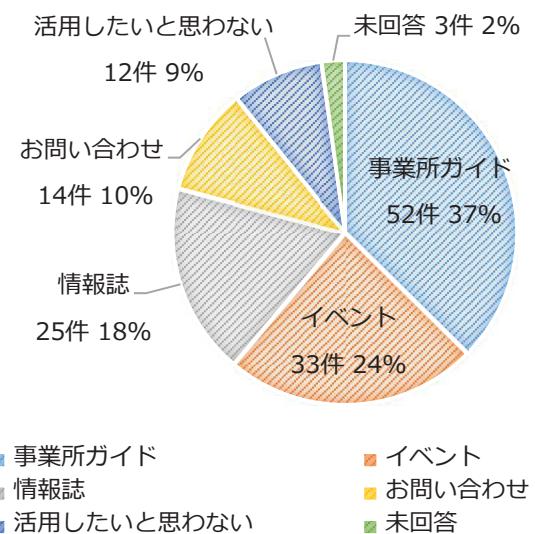
■だんだんあネットの活用ページ（※複数選択可）

だんだんあネットを「活用している」と回答した人で『どのページを活用していますか。』の問い合わせに対して、「事業所ガイド」が65%と最も多く回答している。



■だんだんあネットで今後活用したいと思うページ（※複数選択可）

だんだんあネットを「活用していない」「あるのを知らない」と回答した人で『「だんだんあネット」を閲覧してみて、今後どのページを活用したいと思いますか。』の問い合わせに対して、「事業所ガイド」が39%と最も多く、次いで「イベント」が25%、「情報誌」が17%となっている。



■「だんだんあネット」に載せてほしい情報

『「だんだんあネット」にどういった情報があればいいと思いますか。』との問い合わせに対して、「作成者や目的、根拠等、もう少し詳しく分かりやすく整理されると、情報の信頼性が上がりより利用しやすくなる。」「ターゲットの整理（一般向けか、事業所向けか）」「各種研修会の資料や内容」「症例事例や研修のお知らせ」「事業所の特色、利用空き情報、受け入れ条件、事業所の写真」「病院や事業所などのホームページアドレス」「くまもとメディカルネットワークへの加入の有無」「各市町村が行っている独自サービスと連絡先。各市町村の申請書」「介護情報」「在宅医療・介護の現状」などと回答している。

医療と介護の情報共有シートについて

■「医療と介護の情報共有シート」の活用状況

※対象者の基本情報や緊急連絡先、医療情報(主治医・服薬状況・口腔状況など)、介護情報(介護度・介護サービス利用状況など)を確認できるシート。

『主にケアマネジャーが作成する「医療と介護の情報共有シート※」を活用していますか。』との問い合わせに対して、「活用していない」が79%と最も多く、次いで「活用している」が18%と回答しており、約8割が活用していないことが分かった。

活用していない理由としては、「知らなかった」が最も多く、「別のツールを使っている」「シートを活用する機会がない」「別の用紙に改めて転記することが手間」などと回答している。

「活用している」と答えられた人で活用して良かった点としては、「情報が整理されていて見やすい。」「利用者や患者の状況がよく理解できる。」「事前に状況把握することでスムーズに対応できる。」「救急搬送時に必要な情報を救急隊に共有することができた。」と回答している。

医療と介護の連絡シートについて

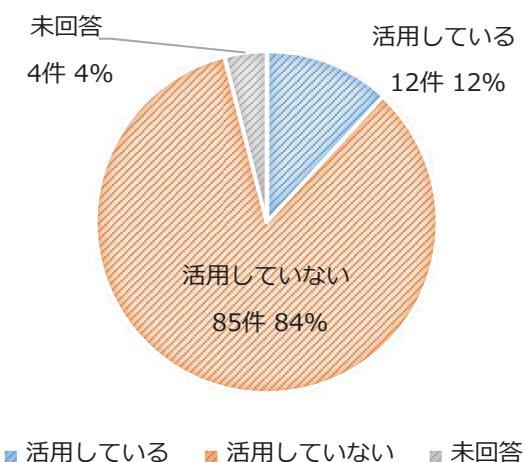
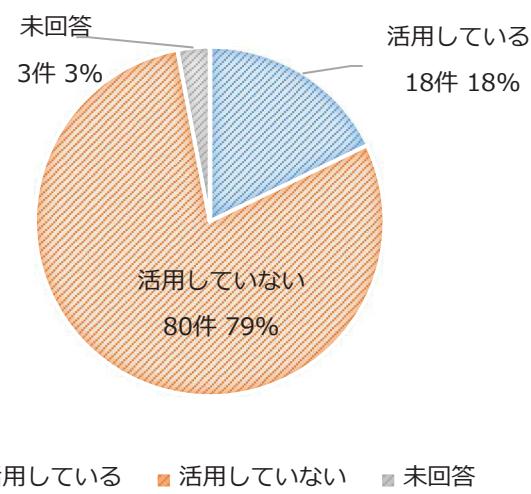
■「医療と介護の連絡シート※」の活用状況

※医療機関と介護事業所が互いに報告・連絡・相談に活用できるシート。

『「医療と介護の連絡シート」を活用していますか。』との問い合わせに対して、「活用していない」が84%と最も多く、次いで「活用している」が12%と回答しており、約8割が活用していないことが分かった。

活用していない理由としては、「知らなかった」が最も多く、「別のツールを使っている」「シートを活用する機会がない」「よく理解していない」などと回答している。

「活用している」と答えられた人で活用して良かった点としては、「連絡先など分かりやすく記載してあり、すぐに対応できる。」「状態の把握が行いやすい。」「主治医から返事をもらうことができた」と回答している。

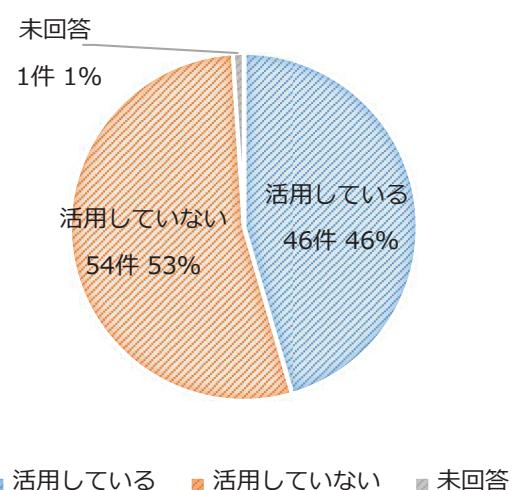


くまもとメディカルネットワークについて

■くまもとメディカルネットワークの活用状況

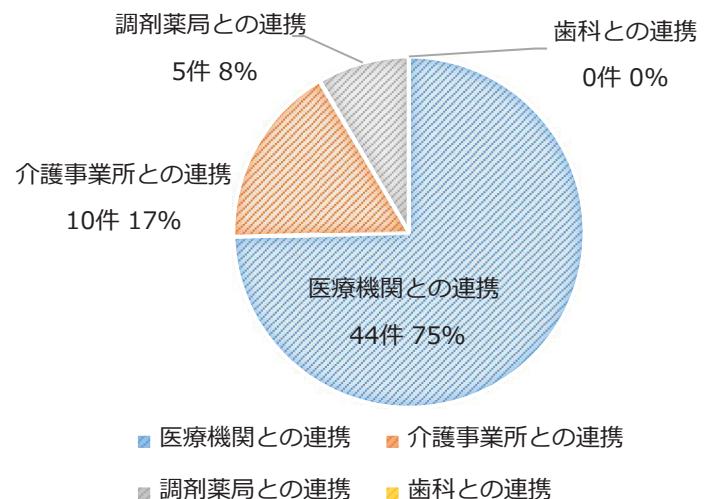
『現在、くまもとメディカルネットワークを活用していますか。』との問い合わせに対して、「活用していない」が52%と最も多く、次いで「活用している」が47%と回答しており、半数以上が活用していないことが分かった。

活用していない理由としては、「必要性を感じない」が最も多く、「コストがかかる」「シートを活用する機会がない」「活用方法(利点・難点)が分からぬい。理解していない」などと回答している。



■くまもとメディカルネットワークを活用した連携先（複数選択可）

くまもとメディカルネットワークを「活用している」と答えた人で、『どのようなときに活用されていますか。』との問い合わせに対して、「医療機関との連携」が75%と最も多く、次いで「介護事業所との連携」が17%、「調剤薬局との連携」が8%と回答しており、約7割が医療機関と連携しており、歯科との連携には全く活用していないことが分かった。



■くまもとメディカルネットワークを活用してみての意見

『くまもとメディカルネットワークを活用してみてのご意見をお聞かせください。』との問い合わせに対して、「スムーズに情報共有できる。」「入退院の情報が取得しやすい。」「利用頻度は各事業所で大きく差があり、まだ浸透していない」「登録者が少なく、なかなか普及しない。全事業所、医療機関がつながってほしい。」などと回答している。

■くまもとメディカルネットワークを活用していない理由

くまもとメディカルネットワークを「活用していない」と答えた人で、『活用していない理由をお聞かせください。』との問い合わせに対して、「コストがかかる」「必要性を感じない」「活用方法が分からぬい。理解していない」などと回答している。

その他について

■活用している情報共有ツールの名称

『くまもとメディカルネットワークと別の情報共有ツールを活用している場合は、そのツールの名称を教えてください。』との問い合わせに対して、「バイタルリンク」が最も多く、次いで、「メディカルケアステーション」「ライン」「マイナンバーカード」「メルタス」「カイポケ」「メール」と回答している。

一方で、「情報共有のツールが複数あり、確認ミスや使い分けによる面倒さ、非効率がおきているため、紙でのやりとりを好まれる人が多い。」などの声がある。

■後継者不足や人材不足に対する取り組みなど

『後継者不足や人材不足に対する取り組みなどがありましたら、お聞かせください。』との問い合わせに対して、「資格保有者への声掛けやハローワーク、人材紹介会社などを活用した人材募集」「定年退職後の再雇用」「希望休暇が取得できやすい、入社お祝い制度、職員のメンタルヘルスケアなどの導入による働きやすい職場づくり」「ICTの活用による業務負担軽減。時短勤務の推奨」「研修等による従業者育成」「資格取得費用の助成。」などと回答している。

一方で、「求人募集をしても応募がない」「テクノロジーの進歩によって、人材不足を解消できる方法はあるが、変化を好まない人が多いため、既存の方法から変われない」「定年にきているが、辞められない」「日々の業務に精一杯でそこまで回らない」などの声がある。

■医療と介護の連携について、日頃感じていることなど

『医療と介護の連携について、日頃感じていることなどがありましたら、お聞かせください。』との問い合わせに対して、「顔の見える関係づくりが必要」「もう少し研修会や交流会があれば連携も更に取りやすくなる」「在宅でのイメージがつかないまま退院している人が多い」「連携を図りたいが人材不足で難しい」などと回答している。